

結核集団感染事例について

市内保健所に肺結核患者の届出があり、市内の事業所における接触者への健康診断等により、これまでに結核患者5名が確認され、結核集団感染事例として、厚生労働省に報告しましたので、お知らせします。

1 経緯

- 初発患者（20代、男性）は、令和5年5月下旬に咳、発熱、体重減少が出現。症状が続くため、7月中旬に市内の医療機関を受診したところ、検査の結果肺結核と診断を受け、8月10日に市内保健所へ届出があった。
- 令和5年9月より、患者が勤務する市内の事業所における接触者（8人）への健康診断等により、令和5年12月25日現在、結核患者5名が確認された。

接触者数	健診等結果			
	結核患者	感染者	精査中	異常なし
8名	5名	0名	3名	0名

2 結核患者等の概要

- 現時点で、初発患者を除き患者5名。（外国籍4名、日本国籍1名で、いずれも同僚）結核菌の遺伝子型別検査を実施したところ、初発患者の結核菌と遺伝子型が一致したため、同一の感染源による感染と判断。
- 初発患者含む患者および感染者は治療中であるが、重症ではない。

結核集団感染とは、厚生労働省が定める基準において、同一の感染源が2家族以上にまたがり、20人以上に結核を感染させた場合をいい、患者1人は6人が感染したものと感染患者数を計算することとなっている。

	年代・性別	症状等	転帰
初発患者	20代・男性	咳、発熱、体重減少	通院治療中
接触者 (患者※)	① 20代・男性	咳、痰、発熱、胸痛	通院治療中
	② 30代・男性	肺所見有	通院治療中
	③ 20代・男性	咳、痰、発熱	通院治療中
	④ 20代・男性	肺所見有	通院治療中
	⑤ 50代・男性	肺所見有	通院治療中

→ 初発患者と
遺伝子型一致

※「患者」とは、結核菌が体内で増えて病気を引き起こした状態にある者をいい、発病初期は、他者に感染させることは少ないが、病状の進行に伴い、咳や痰の中に結核菌が排菌されると他者に感染させることがある。

3 行政対応

- 患者の健康調査、接触者調査及び感染拡大防止の指導を実施。
- 治療中の患者に対して、服薬継続が確実にされるよう支援を実施。
- 初発患者は一時入院治療していたが、現在は軽快し通院治療中である。また、接触者に対しては健診や継続的な経過観察等を実施しており、現時点では感染拡大の可能性は低い。

【市政記者クラブの皆様へ】

結核は、近年減少傾向にあるものの、令和4年は、全国で約1万人、福岡市では100人以上が新たに結核患者と診断されており、いまだ警戒が必要な感染症のひとつです。特に加齢によって抵抗力が低下する高齢者や、結核の罹患率が高い国出身の方が多く報告されています。結核の早期発見のためには、定期的に健診を受けるとともに、咳や痰などの症状が2週間以上続く場合は受診することが重要です。市政記者クラブの皆様におかれましては、市民への結核に関する啓発にご協力をお願いします。

参考**1 結核の特徴**

原因（病原体）：	結核菌
感 染 経 路：	結核は、たんの中に「結核菌」が出ている患者の、せきやくしゃみで飛び散ったしぶきを吸い込むことにより感染します。
感 染 と 発 病：	「感染」＝「発病」ではありません。「感染」は体内に結核菌を保菌している状態で症状はありません。結核菌が病巣をつくり、その中で増え始めると「結核を発病」した状態になります。感染した人がすべて発病するわけではありません。 結核の感染者のうち発病する人は、約1割といわれ、発病する場合は感染後6カ月頃から2年以内のことが多いといわれています。まれに潜伏期間が数十年に及ぶ場合があり、他の病気や加齢等により身体の抵抗力が低下したときなどに発病することもあります。
発病した場合の症状：	咳、痰、発熱、血痰、胸痛、倦怠感、寝汗、体重減少などです。 初期の症状は風邪とよく似ているので、見逃されることがよくあります。せきやたんが2週間以上続いたら、結核を疑って早めに医療機関を受診することが重要です。
治 療 方 法：	現在、結核に有効性がある薬（抗結核薬）が開発され、3～4種類の薬を6～12か月確実に服薬すれば治すことができる病気になりました。ただし、薬剤の選択が不適切であったり、途中で内服をやめてしまったり、飲み忘れたりすると薬が効かない「耐性菌」を生み出し、治療できる薬が少なくなり、手術や長期の入院・治療が必要になることもあるため、確実な内服治療が重要です。 なお、他者へ感染させる可能性がある状態（たんの中に結核菌が出ている状態）の場合は入院治療が必要であり、原則として感染予防のための設備が整った結核病床を有する感染症指定医療機関に入院することとなっています。

2 福岡市内における結核集団感染の発生状況（過去5年）

公表日	場所	患者数等
平成31年 3月	日本語教育機関	結核患者19名、感染者 7名
令和 元年11月	勤務先等	結核患者 3名、感染者12名
令和 5年 2月	日本語教育機関	結核患者 3名、感染者 7名
令和 5年10月	専門学校	結核患者 4名、感染者 9名
令和 5年12月	日本語教育機関	結核患者 4名、感染者 6名

【特記事項】

今回の情報提供は、市民への結核に関する啓発及び学校等に対する注意喚起のために行うものであることから、報道にあたっては、患者等のプライバシー保護にご配慮をお願いします。